

隔たりからの更生

—木造密集市街地の記憶を継承した更新—

R09068 林 岳郎
指導教員 澤田 英行

I. 計画背景

都市が急速に変化する現代社会において、都市に住まう人々の地域コミュニティや地域の独自性といった「都市の記憶」は失われつつある。都市をつくるということは「都市の記憶」を継承し、時代に合わせて更新していくことではないだろうか。

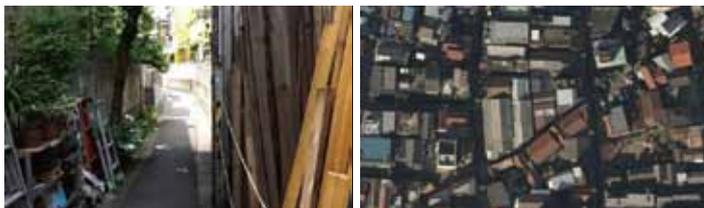
II. 敷地選定・分析



対象敷地：東京都荒川区町屋4丁目（1街区を選定）
面積：約1400㎡
建蔽率：80%
容積率：300%
用途地域：準工業地域 / 特別工業地区
他：重点密集市街地に指定

■町屋の現状

工業地帯として栄えた過去を持ち、現在も町工場や住宅が混在し市街地を形成している。また、細街路や袋小路が多く存在し、密集市街地ならではの人と人が密接に関わることができる環境が残っている。



細街路・袋小路

密集した住宅群



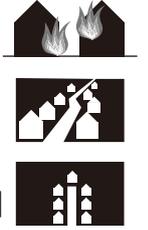
町工場

商店

■現状の問題点

木造密集市街地特有の問題点

- ・防災上危険である
⇒[木造住宅、細街路、袋小路の存在]
- ・建て替えが進まない
⇒[裏宅地の存在]
- ・街に回遊性がなく、住宅街に風が抜けない
⇒[密集した住宅、細街路や袋小路の存在]



整備事業の問題点

- ・駅前に住人の生活が集中し、地域内の繋がりが希薄化⇒[市街地再開発事業]
- ・建て替えの際のセットバックによる細街路の消失
⇒[密集住宅市街地整備促進事業]



■町屋の記憶

町屋における「都市の記憶」は『出会うこと』である。町屋は住・工・商が細街路と袋小路を介して互いに関わりを持ちながら自然発生的に成長してきた街であり、そこにはかつて様々な出会いによる交流があった。

III. 目的

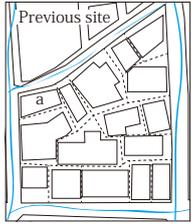
現在の狭隘な木造密集市街地の環境には、住人同士が集い、緊急時には避難路や一時避難場所となる環境が必要である。その環境を町屋4丁目にもたらし、記憶である『出会うこと』を継承しつつ、更新可能な街を創造する。

IV. 提案

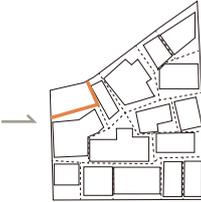
木造密集市街地の敷地境界線に着目する。従来の敷地境界線は塀や生け垣が設けられる等、数十センチの幅しかないために住人同士の交流を隔てている存在である。町屋4丁目の敷地を敷地境界線から再構築することで、狭隘な敷地に広場を生む。町屋の記憶である細街路を介した住人同士の出会いの場を継承しつつ、防災面に配慮し次の世代へと更新可能な街を提案する。1つの建て替えが次の建て替えを誘発し、街全体に広がっていく。

V. 設計手法

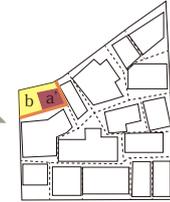
■設計プロセス



協調建て替えを用いて、複数の敷地を年月をかけて段階的に建て替えていく。
～風の流れ



敷地境界線上に RC のヴォリューム (防火壁) を挿入しルールに従って変化させる。
(◇A. 敷地境界の建築化 参照)

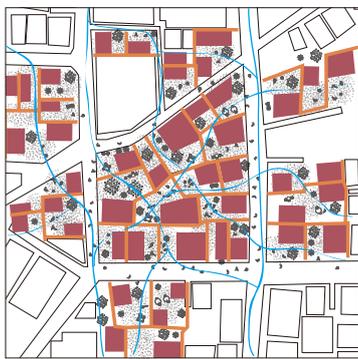


敷地境界線上の建築を指針に住宅 a' (◇B. 住宅の構成方法 参照) を配置することで広場 b を生む。



隣地どうしの広場を繋いでいき、街区に回遊性生まれる。

再構築によってもたらされた広場は、住人同士の交流の場となる。

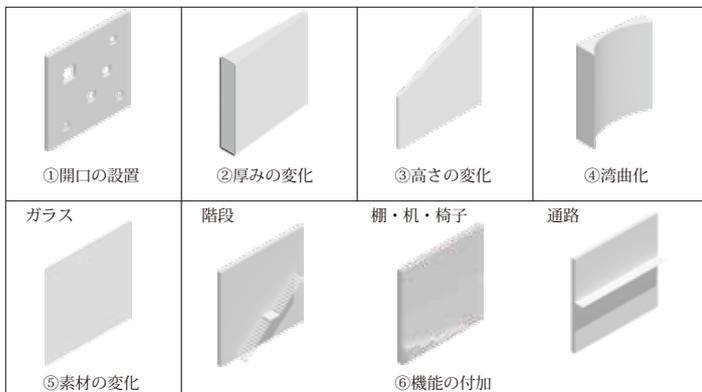


10 years later

敷地境界線を指針に再構築された環境は、人が集う場と人と風の流れをつくる。そして年月をかけて街区を超え、街全体に広がっていく。

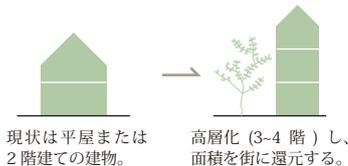
◇A. 敷地境界の建築化

6つのルールに従って RC のヴォリュームを変化させる。

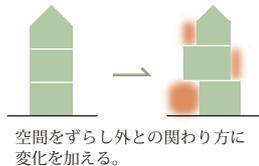


◇B. 住宅の構成方法

1. 高層化



2. ずらす



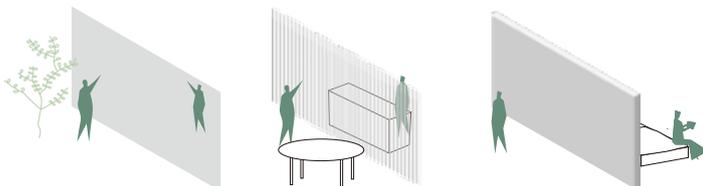
3. 部材の変化

3つの要素で住居を構成することで内と外の関係が変化する。

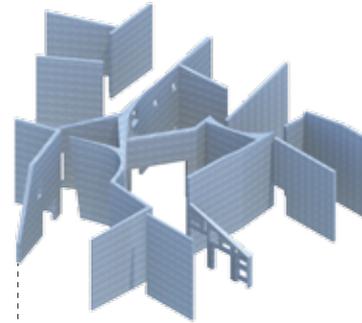
a 透明
・ガラス

b 半透明
・ルーバー

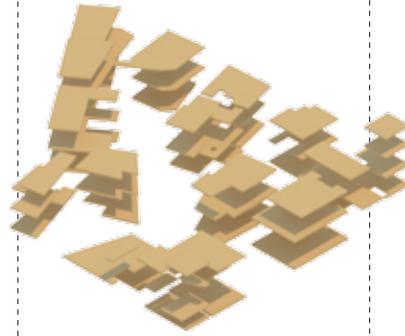
c 不透明
・壁



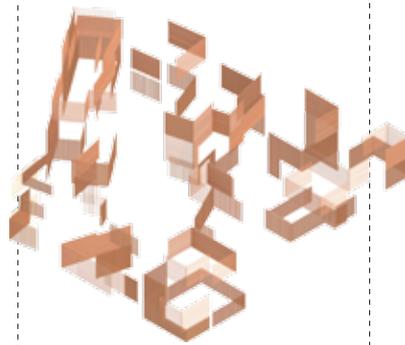
■構成ダイアグラム



・建築化された敷地境界
6つのルールによって住人同士の交流を促す存在。鉄筋コンクリート造のスケルトンとしての壁。剛床設計により住居の水平力を負担する。また防火性があるため、火災の延焼を食い止める。



・住居の床
任意の場所に床が取りつく。



・柱
住居の鉛直力を負担する。プランに応じてランダムに配置する。

・外壁
その空間で行われる行為によって透明、半透明、不透明の部材が使分けられる。



VI. 参考文献

宇杉 和夫, 井関 和朗, 岡本 哲志, 青木 仁 (2010)
『まち路地再生のデザイン—路地に学ぶ生活空間の再生術』彰国社 258pp.
後藤 治, 三浦 卓也, 村上 正浩, 関澤 愛 (2009)
『それでも、「木密」に住み続けたい!』彰国社 255pp.